



チェリスト富田牧子が毎回多彩なゲストをお招きし、様々な楽器とのアンサンブルでバロック音楽をご紹介するコンサートシリーズ。

第1回はバロック音楽の花形楽器であるチェンバロの三橋桜子さんをお迎えし、北イタリアの作品を中心にしたプログラムをお届けします。

それまで主に伴奏の役割を担っていたチェロが独奏楽器としても活躍を始め、新たな音楽表現とチェロ独自の演奏技術を切り拓いていく時代のわくわく感を、みなさまにも体感していただけたら嬉しいです。

もちろんチェンバロ独奏もあります！どうぞお楽しみに。

三橋桜子 Sakurako Mitsuhashi チェンバロ奏者

東京都立芸術高校ピアノ科を経て、東京芸術大学器楽科チェンバロ専攻卒業。在学中に安田生命クオリティオブライフ文化財団の奨学生として選ばれる。オランダのユトレヒト音楽院でディプロマを取得。ピアノを寺尾祐子、森正、チェンバロを鈴木雅明、S.ヘンストラ、P.アンタイ、A.ジルベライシュ、通奏低音を多田逸郎、小島芳子、オルガンを早島万紀子の各氏に師事。1998年ブルージュ国際古楽コンクールセミファイナリスト受賞。2000年京都・青山音楽賞受賞。2001年山梨古楽コンクール3位入賞(1位なし)。国内外で通奏低音奏者としても活躍中。2010年CD「ネオバロック ~融け合う時空~」を発売。京都市立芸術大学非常勤講師。同志社女子大学音楽学科嘱託講師。

富田牧子 Makiko Tomita チェロ奏者

バロックと現代のスタイルのチェロにガット(羊腸)弦を張り、楽曲に合わせて持ち替えながら演奏し、自然体の音楽と室内楽の楽しさを広める活動をしている。東京芸術大学在学中にリサイタル開催、演奏活動を始める。同大学大学院修士課程修了後ハンガリーのブダペストに留学、バルトーク弦楽四重奏団チェロ奏者L.メズー氏に師事。ヨーロッパ各地の音楽祭や講習会で研鑽を積む。弦楽四重奏団での活動を経て、現在はフリーの音楽家としてリサイタルや様々な楽器との組み合わせによる「充実した内容の音楽を間近で味わうコンサート」を続けている。身体と演奏の繋がりを探り、耳を澄ませて楽器の音を引き出すレッスンも行っている。パーカッションとのデュオ《羊とヤギ》でCD「O Terra (大地よ)」を発売。